

『番組は、半封建制の残滓であるという部落問題の属性について正確な言及をせず、「差別」全体に無理やり連関させ、近代社会の「能力」による差別などと混同させる内容となっている。それは、国民の「心」、「習慣」などの改変を呼びかけるもので、道徳的教訓のみに陥る傾向を持っている。』

について、繰り返しになりますが、封建社会が終わっても部落差別が残ったことをコメントしています。スタジオの話を取りあげて、『近代社会の「能力」による差別などと混同』と指摘されているようですが、現代社会には、「仕事ができるかどうか」だけをもって、その人自身の人間的価値を決めつけている一面があるということを指摘したまでです。この例は、人間というものが、＜他人と自分を区別し、そのことで相手を貶め、自らを高みに立たせようとしがちな存在＞であり、これは現代社会に生きる私たちにとっても、一人一人が常に自問すべき問題であると伝えるための一例です。『「心」「習慣」などの改変を呼びかけるもので、道徳的教訓のみに陥る』と指摘されておりますが、まず「習慣」という言葉は使用しておりませんし、前述の番組テーマを伝えようとしたまでです。

『水平社の運動が、今日の日本国憲法の精神にいかん反映されてきたか、今日の人権確立にどういったかたちで結びついてきたのか、などが明確にされていない。その一方で、「地名総鑑」を現在も広範な被害をもたらしている問題として取り上げ、また50年前に差別を受けたという広島的女性を登場させてあたかも部落問題がいまなお深刻な問題であるかのごとく描き出している。』

との指摘について、まず日本国憲法の精神に反映されたかどうかは今回の番組の趣旨ではありませんし、「水平社の運動」が「日本における人権運動の原点」であると番組内で明確に伝えております。スタジオでゲストの話の中に出てきた「地名総鑑」は一つの例であり、被害の範囲が広範囲か否かではなく、現在も差別が無くなっていないと指摘したものです。さらに広島的女性を取材することでは、差別は生涯消えない傷を人の心に残す深刻な問題であることを伝えようとしてしました。『部落問題がいまなお深刻な問題』と指摘されますが、エンディングのVTRでは、部落差別のみならず、「差別」問題は、私たち一人一人が真剣に向き合うべき課題であることを伝えようとしたものです。

『総じてこの間のNHKの部落問題の取り上げ方は、解決にむけて大きく前進した状況を正しく国民に知らせることを放棄し、問題や課題の背景に部落問題解決に逆行する「解同」の糾弾路線や特別な対策と予算を継続する行政・教育のもたらす「逆差別」があることも指摘しないなど、公正中立、真実の報道にほど遠い実態にある。かかる姿勢を全面的に見直すことを強く求めるものである。』

このご指摘は、今回の番組にはあてはまらないものと考えます。今後、番組制作を進めていく上で、貴重なご意見として参考にさせていただきます。

以上、ご指摘の点についてのお答えとさせていただきたく思います。今後も、厳しいご意見も含め、NHKの番組へのご協力をよろしくお願いいたします。

敬具

NHK大阪放送局

番組制作部プロデューサー

石井 裕一郎